# 郷土資料あれこれ85

【問合せ】社会教育課
郷土史編さん係
☎773－2197

これまでに冬・春・夏の風景を紹介してきました。今回は、秋から冬にかけての昔の風景を紹介します。

写真①は、イナゴを採取した時の様子です。稲にとっては害虫であり、駆除に頭を悩ませるイナゴですが、貴重なタンパク源として採取もされていました。

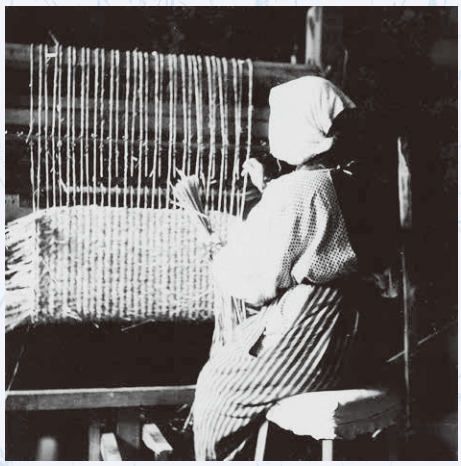
六日町小学校で児童の採取するイナゴの売れ行きは、例年好調で、多くの注文の予約が学校に寄せられたそうです。昭和28年の売り上げは35，000円もあり、電気蓄音機の購入費、各学級の図書費などに充てられました。昭和29年は10月19日から捕りはじめ、児童は毎日午前8時から1時間半くらい、地区ごとに分かれ作業にあたりました。同月22日までに採取したイナゴは8石を超え、その売り上げ金額は25，000円となり、使い道は、生徒会会議で決定されたそうです。

写真②は、わら細工の作製の様子です。農家の冬期間の大切な仕事にわら加工がありました。普段の生活や農作業で使うむしろ、米俵、カマスなどさまざまなわら細工を作りました。カマスは、わらで作ったむしろを袋状にしたもので、炭や穀物の保管に使われていました。また、これらのわら細工の売り上げは、農家の貴重な現金収入源となっていました。

昭和29年の経済連魚沼支部のカマスの生産目標は45万枚でした。1枚当たりの価格は45円程度だったそうです。

写真③は、産卵のために川を上ってくるサケにカギ針をひっかけて捕獲するサケ漁の様子です。撮影は、魚野川で昭和36年11月下旬ごろです。12月も半ばを迎えると漁の時期は終わりとなります。この年は雨が多く、川の水量が減らず、サケの遡上（そじょう）する数は少なく、1日の漁で2～4匹がとれれば良いほうだったといいます。

写真①　採取したイナゴの整理



写真②　カマス織の様子

写真③　サケ漁の様子

《参考資料》「魚沼新報」
写真は個人所有

## 南魚沼産コシヒカリのプロモーション動画が完成

【問合せ】農林課 農業振興係
☎773－6663

みなみ魚沼農業協同組合青年部を中心に、管内在住の若手農業者が協力し、若手ならではの新しい発想で南魚沼産コシヒカリのプロモーション動画「農KNOW（ノウ）THE（ザ）FUTURE（フューチャー）」を制作しました。20台のコンバインで、一斉に稲刈りをする様子は壮観です。

若手農業者が自ら企画、出演し、市内を活動拠点とする若手クリエイター陣が撮影や編集、デザイン、音楽などを担当しました。

制作した動画は、動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）でご覧ください。

動画サイトの
ＱＲコード